

## 15 第三の性を生きる（性的マイノリティ）

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、福田愛依がお届けします。今日のタイトルは「第三の性を生きる」です。

10 皆さんは「ノンバイナリー」という言葉を知っていますか。ノンバイナリーとは、男性、女性どちらにも当てはまらない性自認のことで、「第三の性」ともいわれます。福岡市で活動するシンガーソングライターの響子さんは、自身がノンバイナリーであることを公表しています。

15 【響子さん役】私は小さい頃から、どうしても男、女の二つで分けるのか、なぜ恋愛対象が異性でなくてはいけないのかを理解できませんでした。好きな相手が女性だと告げると周りから「男性」だと決めつけられるのもつらく、性同一性障がいやレズビアンとも違い、自分の性自認が自分でも分からず苦しんでいました。

20 そして自分が存在するだけで相手を不快にさせるかもしれない、ノンバイナリーの私に嫌悪感を持つているかもしれないと、心が追いつめられていききました。女性でも男性でもない自分は「人間」として、いえ「生物」としてさえ間違った存在なのではないかと考えるようになり、自分の存在意義を見失

つて、死を考えたこともありません。

25 心が楽になったのは、音楽関係の大学に進学し、仲良くなつた友達<sup>ともだち</sup>が性的<sup>せいてき</sup>マイノリティだと打ち明けてくれたときです。本人<sup>ほんにん</sup>も他の人もごく自然<sup>しぜん</sup>な態度<sup>たいど</sup>なのを見て、私も勇気<sup>ゆうき</sup>をもらい「自分は自分でしかないんだ」と思えるようになりました。

30 (ナレーター) 生きづらさを抱えてきた響子<sup>ひびきこ</sup>さんにとって、音楽<sup>おんがく</sup>は自分<sup>じぶん</sup>を表現<sup>ひょうげん</sup>する場<sup>ば</sup>です。LGBTQのイベントなどでも思い<sup>おも</sup>を込めたオリジナル<sup>オリジナル</sup>曲<sup>きょく</sup>を歌<sup>うた</sup>い、「歌詞<sup>かし</sup>に共感<sup>きょうかん</sup>した」「前向き<sup>まえむ</sup>になれた」という声<sup>こえ</sup>が届く<sup>とど</sup>こともあります。

35 【響子<sup>ひびきこ</sup>さん役】自分<sup>じぶん</sup>が性的<sup>せいてき</sup>マイノリティであることを言<sup>い</sup>えずに、苦し<sup>くる</sup>んでいる人<sup>ひと</sup>はまだたくさんいます。つらいときは戦<sup>たたか</sup>わなくていいし、その環境<sup>かんきょう</sup>から逃<sup>に</sup>げることも大事<sup>だいじ</sup>です。今<sup>いま</sup>は孤独<sup>こどく</sup>だと感じ<sup>かん</sup>じていても「自分<sup>じぶん</sup>自身<sup>じしん</sup>」を見<sup>み</sup>てくれる人<sup>ひと</sup>は必ず<sup>かならず</sup>います。

40 音楽<sup>おんがく</sup>や絵画<sup>かいが</sup>などは作品<sup>さくひん</sup>そのものを、ありのままに受け入れ<sup>う</sup>てもらえます。人<sup>ひと</sup>も同じ<sup>おな</sup>じように、性別<sup>せいべつ</sup>にとらわれずそのままの人間性<sup>にんげんせい</sup>や感性<sup>かんせい</sup>で認め<sup>みと</sup>め合<sup>あ</sup>えたら、どんなに幸<sup>しあわ</sup>せだろうと思<sup>おも</sup>うのです。性別<sup>せいべつ</sup>の枠<sup>わく</sup>を超<sup>こ</sup>えて、お互<sup>たが</sup>いに「心<sup>こころ</sup>と心<sup>こころ</sup>」でつながることが大切<sup>たいせつ</sup>なのではないでしょうか。

(本文937字)